

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、市民が市政についてどのように考え、また何を望んでいるのかを統計的に把握するとともに、施策の評価や市政への関心・意識の程度を調査し、市政運営上の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の項目

調査項目は以下のとおりである。

調査事項	調査項目
回答者属性	性別、年齢、職業、家族構成、居住年数、居住地域、居住地区
宇都宮市に対する感じ方	宇都宮市の好き・嫌い、好きな理由、嫌いな理由
広報媒体の活用状況	市政情報の各広報媒体の視聴状況、「広報うつのみや」の情報の入手方法、入手していない理由、「広報うつのみや」で読んでいる記事、「広報うつのみや」に関する感想、取り上げてほしい話題・情報、市のホームページを見るための主な手段、ホームページで知りたい情報はどこから探すか、ホームページで知りたい情報は探しやすいか、ホームページに関する感想、充実してほしい機能や情報、市政情報をどんな手段で知りたいか
健康づくり	健康面からの生活習慣、相談できるかかりつけの歯科医院、主食・主菜・副菜をそろえて食べる日数
カスタマーハラスメント	「カスタマーハラスメント」の認知度
福祉活動への参加	参加してみたい福祉活動、地域の福祉活動に参加しやすくするために必要だと思うこと
生物多様性	自然環境について関心があるか、「生物多様性」の認知度、外来種が及ぼす影響の認知度
宇都宮市の景観	宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるか、「宇都宮らしい景観」とは何か、良好な都市景観の形成に必要なこと、ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象、ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象を持った点
うつのみや産の農産物	「うつのみや産」の農産物の購入意欲、宇都宮の農業を大切にしたいと思うか
まちなかにある既存公園の更なる魅力・利便性の向上	「八幡山公園」の利用頻度、「八幡山公園」の利用目的、「八幡山公園」の魅力や利便性の向上に必要な施設、「宇都宮城址公園」の利用頻度、「宇都宮城址公園」の利用目的、「宇都宮城址公園」の魅力や利便性の向上に必要な施設
救急車の利用	救急受診アプリケーション「Q助」の認知度、「救急電話相談（大人用#7111、子ども用#8000）」の認知度、救急電話相談の相談時間の認知度
上下水道事業	上下水道サービスの満足度、上下水道局の広報紙「私たちのくらしと水」を読む頻度
まちづくり活動への意識	まちづくり活動の参加状況、参加中または興味があるまちづくり活動、まちづくり活動に参加したいと思わない、または参加できない理由
資源とごみの分別	「プラスチック製容器包装」の排出時の分別状況、「プラスチック製容器包装」を分別しない理由、資源化できる紙の排出時の分別状況、資源化できる紙を分別しない理由、ごみと資源物の分別を推進するために必要なこと、ごみと資源物の分別の周知方法として有効な取組

住宅用火災警報器の設置及び維持管理状況	「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況，設置している住宅用火災警報器の経過年数，住宅用火災警報器等の「点検」の有無
大谷石文化の日本遺産認定	「大谷石文化」が日本遺産に認定されていることの認知度，「大谷石文化」を誇りに感じるか
雨水貯留・浸透施設の補助金制度	「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度，貯留タンクや浸透ますなどの設置に対する補助金制度の認知度，貯留タンクや浸透ますなどの設置効果についての認知度，貯留タンクや浸透ますなどを設置したいと思うか，設置希望・既設置の理由，設置したくない理由
いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会	栃木県で国体が開催されることの認知度，国体開催情報の入手手段，とちぎ国体へのボランティアとしての参加意向，国体を盛り上げるために重要だと思うこと
多文化共生の認知度	多文化共生の認知度，外国人と日本人が文化的な違いを認め合える雰囲気の有無，多文化共生の推進にあたり大切なこと
結婚・出産・子育てに関する意識	結婚しているか，結婚するつもりがあるか，結婚している場合，全部で何人のお子さんを持ちたいか，結婚を予定している場合，子どもは何人ほしいか
SDGs（エス・ディー・ジーズ）	SDGsについての認知度，SDGsにつながる行動の中で，日頃から取り組んでいるもの，SDGsのゴールの中で興味・関心のある分野
もったいない運動	「もったいない運動」の認知度，「もったいない運動」を知った経緯，日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」
男女共同参画	家事・育児・介護それぞれに費やした時間，社会的な活動の実施状況，配偶者からの暴力を受けた経験，LGBT（エルジービーティー）の認知度
福祉のまちづくり	保健福祉サービスに関する情報提供の満足度，福祉のまちづくりについての関心
防犯・交通安全に関する意識・状況	安心して暮らすことができるか，自転車保険の加入状況，自転車乗車用のヘルメットの所持及び着用状況

3. 調査の設計

- 調査地域 宇都宮市全域
- 調査対象者 満 18 歳以上 80 歳未満の日本国籍を有する市民 4,800 人
- 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- 調査方法 郵送法（回収にあたってはインターネットを併用）
- 調査期間 令和 4 年 8 月 3 日～9 月 12 日

4. 回収結果

調査対象数	有効回答数	有効回答率
4,800	2,318	48.3%

<性別・年齢別の回収状況>

年代	性別	調査対象数	郵送		インターネット		合計	
			回収数	回収率	回収数	回収率	回収数	回収率
10歳代	男性	34	5	14.7%	4	11.8%	9	26.5%
	女性	42	8	19.0%	3	7.1%	11	26.2%
	計	76	13	17.1%	7	9.2%	20	26.3%
20歳代	男性	249	24	9.6%	41	16.5%	65	26.1%
	女性	209	43	20.6%	21	10.0%	64	30.6%
	計	458	67	14.6%	62	13.5%	129	28.4%
30歳代	男性	357	43	12.0%	75	21.0%	118	33.1%
	女性	303	84	27.7%	53	17.5%	137	45.2%
	計	660	127	19.2%	128	19.4%	255	38.6%
40歳代	男性	529	95	18.0%	103	19.5%	198	37.4%
	女性	463	139	30.0%	90	19.4%	229	49.5%
	計	992	234	23.8%	193	19.5%	427	43.0%
50歳代	男性	465	109	23.4%	72	15.5%	181	38.9%
	女性	426	180	42.3%	70	16.4%	250	58.7%
	計	891	289	32.4%	142	15.9%	431	48.4%
60歳代	男性	403	152	37.7%	47	11.7%	199	49.4%
	女性	404	241	59.7%	25	6.2%	266	65.8%
	計	807	393	48.7%	72	8.9%	465	57.6%
70歳以上	男性	374	197	52.7%	14	3.7%	211	56.4%
	女性	542	345	63.7%	6	1.1%	351	64.8%
	計	916	542	59.2%	20	2.2%	562	61.4%
年代不明	男性	-	0	-	0	-	0	-
	女性	-	2	-	0	-	2	-
	不明	-	21	-	0	-	21	-
	計	-	23	-	0	-	23	-
その他	その他	-	3	-	3	-	6	-
全体	男性	2,411	625	25.9%	356	14.8%	981	40.7%
	女性	2,389	1,042	43.6%	268	11.2%	1,310	54.8%
	その他	-	3	-	3	-	6	-
	不明	-	21	-	0	-	21	-
合計		4,800	1,691	35.2%	627	13.1%	2,318	48.3%

5. 標本誤差

アンケート調査を行う場合、全母集団を対象とすることが望ましいが、実際には適切な数の標本を抽出して調査を行うことになる。そのため、アンケートの回答結果が、どの程度の精度を持った回答結果であるのかを検討することが必要となる。その精度は以下の式で表される標本誤差を算出することで把握できる。

通常のアンケートでは、信頼度として95%がとられるケースが多い。信頼度95%とは、100回に5回がその標本誤差の範囲におさまらないという意味である。

次の表は、本調査における信頼度95%の場合の標本早見表である。

回答の比率 (P) 回答数 (n)	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
2,318	±1.22%	±1.62%	±1.86%	±1.99%	±2.03%
2,000	±1.31%	±1.75%	±2.00%	±2.14%	±2.19%
1,600	±1.47%	±1.96%	±2.24%	±2.40%	±2.44%
1,200	±1.69%	±2.26%	±2.59%	±2.77%	±2.82%
800	±2.08%	±2.77%	±3.17%	±3.39%	±3.46%
400	±2.94%	±3.92%	±4.49%	±4.80%	±4.90%

<標本誤差の算出方法>

$$b = 1.96 \sqrt{\frac{(N-n)}{(N-1)} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

b : 標本誤差

N : 母集団数 (宇都宮市の満18歳以上80歳未満人口)

n : 比率算出の基礎 (回答者数)

P : 回答の比率 (%)

1.96 : 信頼度95%の場合 (信頼度99%の場合は2.58を使用)

<表の見方>

この表の見方としては、例えば、回答者数が2,318で宇都宮市が「好き」との答えが45.8%であった場合、「その回答比率の範囲は最高でも45.8%±2.03%以内(43.77%~47.83%)である」と見ることができる。

6. 調査報告書の見方

- 集計値は、小数点第2位を四捨五入とする。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- 回答比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- 基数となるべき実数はnとして表示した。その比率は、件数を100.0%として算出した。
- n値が少ない属性は、記述に含まれない場合がある。
- 世論調査の結果のクロス集計結果については、年齢や家族構成等の属性によって、回答者数にばらつきがあることから、参考として記載する。